

ハバナ出土の東洋磁器

Oriental Porcelains Excavated in Havana, Cuba

長崎大学 野上 建紀

テンプロマヨール博物館 エラディオ テロス エスピノサ

NOGAMI Takenori (Nagasaki University)・

Eladio Terreros Espinosa (Museo del Templo Mayor)

はじめに

16世紀末から19世紀初めにかけて、スペイン船によるアジアとアメリカを結ぶ貿易ルートがあった。マニラ・アカプルコ間を往復したマニラ・ガレオン貿易ルートである。この貿易ルートを通じて、アメリカ大陸からアジア市場へ銀がもたらされ、アジアからは絹や香料をはじめとした産物が太平洋を渡っていった。18世紀初頭に至るまでアジアでのみ生産が可能であった磁器もその重要な産物であった。

筆者は2004年のマニラ出土陶磁器の調査を皮切りに、スペインのマニラ・ガレオン貿易における陶磁器貿易について調査研究を行ってきた。調査方法は各地の遺跡から出土した陶磁器を種類、年代、生産地等により分類し、分析するというものである。同時に実測図作成と写真撮影による資料化を行い、各地域間の資料の比較を重ねていった。2005年は主にマニラへの輸入経路上の貿易拠点の調査を行い、続く2006年からメキシコをはじめとした中米地域から出土した東洋磁器に関する調査を行っている。メキシコ以外ではグアテマラ（2012・2013年）、パナマ（2013年）の調査を行い、2014年には新たにキューバのハバナで調査を行った。ハバナは太平洋を渡った東洋磁器がさらに大西洋を越えていったかどうか知る上で極めて重要な位置にある。

2014年8月20日～25日にかけてメキシコ国内の遺跡の調査を行い、26日から30日にかけてハバナの遺跡の調査を行った。5日間の短い調査期間であったが、ハバナの考古学博物館の協力により効率的な調査を行うことができた。本研究ノートでは、このハバナ調査で得られた資料の紹介と考察を行う。

1. キューバの貿易小史

1492年8月3日にスペインを船出したクリストファー・コロンブスは、バハマ諸島にたどり着き、10月27日にキューバに上陸している。1508年にはセバスティアン・デ・オカンポがキューバ全島を探検し、一つの島であることを証明している。1511年にスペインの総督ディエゴ・コロンは島の征服を決意し、そして、実行に移した（ラモール1973）。キューバはメキシコ湾の探検と征服のための前進基地として発展を遂げていった。また、島の何か所かで砂金が発見され、1518年まで小さなゴールド・ラッシュが続いて、バルバコア、トリニダー、カマゲイなどの町々が建設され、1519年にはサンティアゴが首邑となった（増田1999）。しかし、スペイン・アメリカ間の船団の航路が確定すると、北海岸東部に位置するハバナが帰航する船団の集結地となり、カリブ海随一の重要港となった（増田1999）。それゆえにフランス、オランダ、イギリスなど他国の襲撃を受け、その結果、ハバナを防衛する要塞が築かれていくことになる。また、1550年代にはタバコ産業が興り、良質のタバコがスペイン向けに輸出されるようになり、砂糖の生産も始まった（増田1999）。

一方、アメリカ大陸と太平洋を挟んだ反対側のもう一つのスペインの植民地フィリピンでは、1565年にミゲル・ロペス・デ・レガスピがセブ島に到着し、占領したセブシティをフィリピンの首都としたが、6年後の1571年にはマニラを占領し、首都を移してフィリピン統治とアジア貿易の拠点とした。マニラ建設後まもなく先に述べたマニラ・ガレオン貿易ルートが開設された。前述のとおり、スペインのアジア側拠点のマニラとアメリカ大陸を結ぶ貿易ルートであり、アメリカ大陸から銀がアジアへ渡り、そして、アジアからア

アメリカ大陸へ絹や香料、陶磁器をはじめとした産物が太平洋を横断して運ばれた。そして、それらのアジアの産物はアメリカ大陸のスペイン植民地に流通し、中には陸路で大西洋側の港であるベラクルスに運ばれ、さらに大西洋を横断してスペイン本国に運ばれるものもあった。マニラ・ガレオン貿易によってアジアからアメリカ大陸やスペインにもたらされた商品はさまざまであり、沈没船資料が当時の貿易を具体的に示してくれる。1600年にマニラ沖で沈んだサン・ディエゴ号、1622年にフロリダ沖で沈んだアトーチャ号、1638年にサイパン沖で沈んだコンセプション号、1641年にドミニカ沖に沈んだコンセプション号などが知られている。学術的な発掘調査が行われたものもあれば、商業的サルベージによって引き揚げられたものもある。金、銀、銅、宝石、陶磁器などが大量に発見されており、当時の盛んな貿易を物語っている。もちろん海中で腐食し、消失した貿易品も少なくない。これらの沈没船の中でハバナを出港あるいは寄港した船はアトーチャ号とコンセプション号である。いずれも大西洋を横断してアメリカ側からスペイン本国に向かおうとしていたもので、マニラ・ガレオン貿易によってもたらされたアジアの陶磁器などの産物やアメリカの金、銀などを積んでいたものである。ハバナはスペインへ向かうそのような船の集結地であった。

18世紀に入り、1714年にブルボン王朝がスペインで発足し、植民地に対する統制が厳しくなると、1717年にはタバコが王室の専売事業になり、1740年に王立商社が設立されて、スペイン・キューバ間のすべての貿易はその事業になった（増田1999）。この厳しい統制状態に大きな変化をもたらしたのが、1762年のイギリスによるハバナ攻囲と占領であり、その占領下でハバナはイギリス領アメリカとの自由な貿易を行った。1763年にフロリダとの交換によりハバナはスペインに返還されたが、ハバナの自由貿易への欲求は強く、1765年にキューバと全スペイン帝国との自由貿易が認められた（増田1999）。タバコ貿易、砂糖貿易、そして、それに伴い奴隷貿易が盛んに行われ、1789年には全ての国の奴隷商人がキューバに奴隷を輸入することが許され、1818年にはタバコの生産、販売が自由化され、ついにキューバはすべての国の商船に門戸を開くこととなった（増田1999）。ハバナが自由貿易の権利を獲得し

ていく一方で、スペイン本国は斜陽化していき、19世紀初頭にはメキシコ副王領の独立に伴い、およそ250年続いたスペインによるマニラ・ガレオン貿易も終焉を迎えた。

2. ハバナ出土の東洋磁器

ハバナの旧市街の歴史地区を中心に市内の各遺跡から東洋磁器が出土している (Fig. 2)。出土地点等は一覧表 (Tab. 1, 2) を参照されたい。当該歴史地区は世界遺産にも登録されており、開発工事等に際して随時発掘調査が行われており、その中で出土したものである。ただし、詳細な出土状況を示す写真等は確認できていない。陶磁器の編年観から16世紀後半～17世紀前半、17世紀後半、17世紀末～18世紀前半、18世紀～19世紀初めの順に紹介する。なお、Fig. 6はアジアの家 (La Casa- Museo de Asia) の保管分、Fig. 7は考古学博物館 (Museo de Arqueología de la Oficina de Historiador de la Ciudad de La Habana) の保管分である。

2. 1 16世紀後半～17世紀前半

Fig. 6-1～5、Fig. 7-1～7がこの時期に該当するが、いずれも景德鎮窯で焼かれた製品である。Fig. 6-1～3、Fig. 7-6は染付芙蓉手皿である。Fig. 6-4、Fig. 7-2、7は染付鹿文皿である。Fig. 7-1は染付折縁皿である。Fig. 7-3、4は染付碗である。Fig. 7-4は「大明年造」銘が入る。Fig. 7-5は色絵鳳凰文折縁皿である。この段階ではまだチョコレートカップは見られない。

2. 2 17世紀後半

Fig. 5およびFig. 7-8、9は日本磁器である。九州北西部の肥前地区で生産されたものであり、特に有田の内山地区で生産されたものと見られる。Fig. 5-2 (Fig. 7-8) については景德鎮窯産の可能性も考えたが、有田焼であろうと判断した。Fig. 5-1 (Fig. 7-9) は染付チョコレートカップである。外面に芥子文と草花文が描かれ、高台内には「大明年製」の銘が入る。Fig. 5-2

(Fig. 7-8)は褐釉掛分染付碗である。器の上半部しか残っていないが、チョコレートカップであろうと思われる。Fig. 5-3は染付チョコレートカップである。外面には草花文が入る。Fig. 5-4も染付チョコレートカップであろう。

2.3 17世紀末～18世紀前半

Fig. 6-6, 8, 10～20, Fig. 7-10～13, 15, 19, 21がこの時期に該当する。いずれも景德鎮窯で焼かれた製品である。器種はチョコレートカップが大半を占め、その他に皿、チョコレートカップ以外の碗などがある。Fig. 6-10～16, Fig. 7-10～13, 15は染付チョコレートカップである。大半が唐草文であるが、草花文が描かれたものもある (Fig. 7-10)。Fig. 6-10～16, Fig. 7-11～13などは唐草文の描き方が福建省東海平潭碗礁1号沈没船遺跡 (碗礁一号水下考古隊2006) から出土している染付チョコレートカップに類似している。碗礁1号沈没船発見の陶磁器の年代は1690～1700年代の間と推定されている (栗2006)。Fig. 7-19は染付唐花文碗である。同様の文様は碗礁1号沈没船発見の染付皿に見られる。Fig. 7-21は色絵皿である。

2.4 18世紀～19世紀初め

Fig. 6-9, 21, 22, Fig. 7-16～18, 22～24がこの時期に該当する。景德鎮窯で生産されたものと徳化窯系の窯で生産されたものがある。Fig. 6-18は青磁掛分碗である。Fig. 6-19, 20, Fig. 7-14は色絵チョコレートカップである。Fig. 7-18は色絵菊牡丹文皿である。染付の素地に色絵を加えたいわゆるチャイニーズ・イマリである。Fig. 6-9, Fig. 7-23, 24は18世紀代の染付楼閣山水文皿である。いわゆるウィロー・パターンの意匠が描かれたものが含まれる。Fig. 7-16は徳化窯系の型作りの色絵碗である。Fig. 7-17は徳化窯系の白磁チョコレートカップである。

3. ハバナ出土の東洋磁器の特質と貿易ルート

3.1 ハバナ出土の東洋磁器の年代と生産地、器種

ハバナで出土している東洋磁器は、最も古いもので16世紀後半の製品が見られる。量的に多いのは17世紀前半および18世紀の製品である。

生産地は中国江西省の景德鎮窯のものが最も多く、その他に福建省の徳化窯系の窯、日本の有田焼が見られる。漳州窯の製品はほとんど見ないが、現在、発掘調査中のサンタ・クララ修道院では碗が出土しているので、輸入されていないわけではない。また、景德鎮窯の製品は全時代を通じて見られるが、徳化窯系の窯の製品は18世紀以降、有田焼は17世紀後半～18世紀前半に限られる。

今のところ、器種は皿と碗に限られる。皿は芙蓉手を含めた中皿が主体であり、碗の多くはチョコレートカップである。この皿と碗の傾向は中米各地と共通している。

3.2 ハバナへの輸入ルート

ハバナに輸入された東洋磁器の貿易ルートについて考える。1641年にドミニカ沖で沈んだコンセプション号の資料をみると、大量の中国磁器が含まれている。この船はベラクルスを出帆し、スペイン本国へ向かう途中、ハリケーンに遭遇して沈んでいることから、これらの中国磁器は中国からマニラを経て、アカプルコにたどり着き、メキシコ高地を横断して大西洋側のベラクルスにもたらされた磁器と考えられる。そのため、少なくとも17世紀中頃まではハバナへもこのルートでもたらされていたと推測される。

次に17世紀後半以降をみってみる。清朝による海禁政策下にあたる17世紀の第3四半期の東洋磁器の主体は有田焼である。海禁政策下、中国磁器の取り扱いができなくなった鄭成功一派は、盛んに長崎から日本磁器を東南アジア一帯に積み出した。マニラもその輸出先の一つであり、多くの日本磁器がもたらされている（野上2013）。マニラに輸入された日本磁器には、有田焼以外の波佐見焼なども含まれていたが、マニラからさらに太平洋を越えて、ア

アメリカ大陸に運ばれる際には選別され、比較的品質の高い有田焼のみが選ばれていた。ハバナで出土した数片の日本磁器はいずれも有田焼である。数としては決して多いものとは言えないが、今回、確認された中国磁器片が40数点にすぎないことを考えると、他の中米地域に比べて、東洋磁器の中で占める割合としては小さくない。今後、東洋磁器の出土資料が増加すれば、有田焼の確認例も増えると推測される。同時代の有田焼がメキシコで数多く発見され、それがマニラから運ばれたものであることを考えると、ベラクルスからもたらされたと考えの方が妥当と思う。

続いて展海令の公布により清朝の海禁政策が解かれ、中国磁器の再輸出が本格化する17世紀末頃においても太平洋ルートによってアメリカに運ばれたものがハバナに持ち込まれた可能性が高い。方真真の教示によれば、スペイン側が記した17世紀末以降のマニラの税関記録の中にチョコレートカップが多数輸入された記載が見られる。チョコレートカップはマニラよりもむしろアメリカのスペイン植民地の需要に応えたものである可能性が高いため（野上2013）、17世紀末になってもマニラからアメリカへ東洋磁器が運ばれていた可能性が高い。その一方、メキシコなどで出土が確認され、キューバでも伝世品の存在が知られる17世紀末～18世紀前半の有田焼の金襴手色絵製品についてはまだアジア側のマニラでは確認されていない。マニラでも展海令以後の製品自体は出土が確認されているので、今後の調査が進めば金襴手色絵製品も確認される可能性が十分考えられるが、現段階ではヨーロッパから運ばれた東洋磁器があった可能性も考えておかななくてはならない。

そして、18世紀以降については、まだ結論を見出せない。いわゆるチャイニーズ・イマリ、染付楼閣文皿や徳化窯系の型作りの染付碗などはメキシコにおける出土事例と共通しており、メキシコと同じルート、すなわち太平洋ルートである可能性が高いものの、すでに述べたようにハバナが自由貿易港として発展しており、アメリカの他の都市や地域から広く輸入される可能性も考えられるからである。

おわりに

マニラ・ガレオン貿易によって太平洋を渡った東洋磁器については多くのことがわかってきている。中米地域での出土状況も概略がつかめてきたところである。一方、まだいくつか課題が残されており、その中でも大きな課題の一つが大西洋ルートの解明である。すなわち、太平洋を渡った東洋磁器がさらにどういった実態をもって大西洋を渡っていったかである。例えばメキシコやグアテマラで発見される有田焼のチョコレートカップに類似したものはスペイン本国でも出土例が確認できるが、それはヨーロッパでも入手可能なものでもあり、大西洋を渡ってきたという流入ルートの特定にはならない。やはり大西洋ルートの解明のためには、スペインへ帰航する船団の集結地であるハバナにおける陶磁器需要の解明が不可欠であろうと思う。

今後はさらに質の高い資料の収集に努めるとともに、ハバナ旧市街の発掘調査を実施したいと考えている。

謝辞

今回の調査では、多くの方々や機関の御協力を得た。芳名を記して謝意としたい。

Museo de Arqueología de la Oficina de Historiador de la Ciudad de La Habana, La Casa-Museo de Asia, Antonio Quevedo Herrero, Ivalú Rodríguez Gil, Roger Arrazcaeta Delgado, Gustavo López Gonzalez, Teresita Hernández Corrales, Racso Fernández

本研究ノートは、平成26～28年度科学研究費（基盤研究(C)(一般)）（課題番号26370757アジア・太平洋海域における有田焼交易ネットワークの考古学的研究）の成果の一部である。

ジャン・ラモール、萬代敬三訳1973『キューバ』文庫クセジュ 白水社
野上建紀2013「ガレオン貿易と肥前磁器—二つの大洋を横断した日本のやき

もの」『東洋陶磁』第42号

増田義郎1999（増田義郎・山田睦男編）「植民地時代のカリブ海地域」『ラテン・アメリカ史①メキシコ・中央アメリカ・カリブ海』新版世界各国史25
山川出版社

碗礁一号水下考古隊2006『東海平潭碗礁1号出水瓷器』科学出版社（北京）

栗建安2006「概述」『東海平潭碗礁1号出水瓷器』科学出版社（北京）

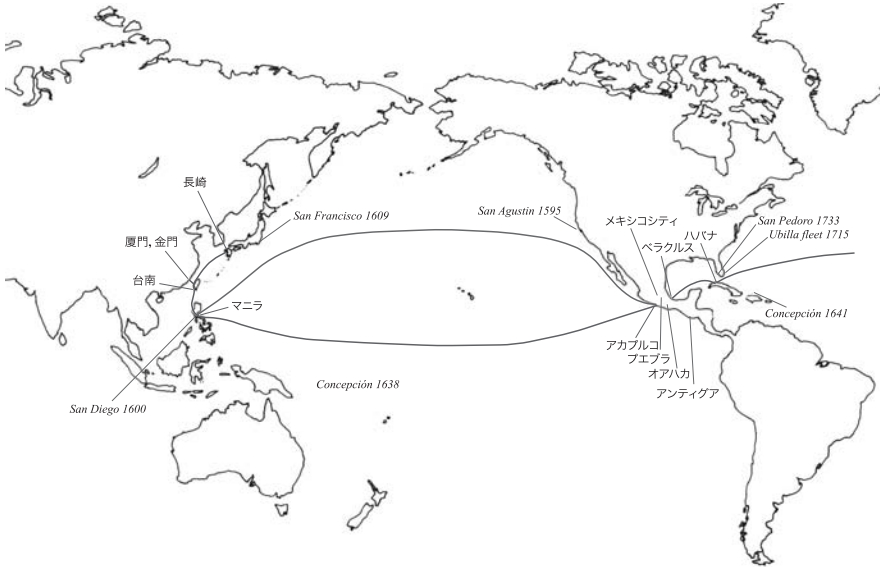


Fig. 1 ガレオン貿易関係図 (斜字は沈没したガレオン船の船名と沈没年代)

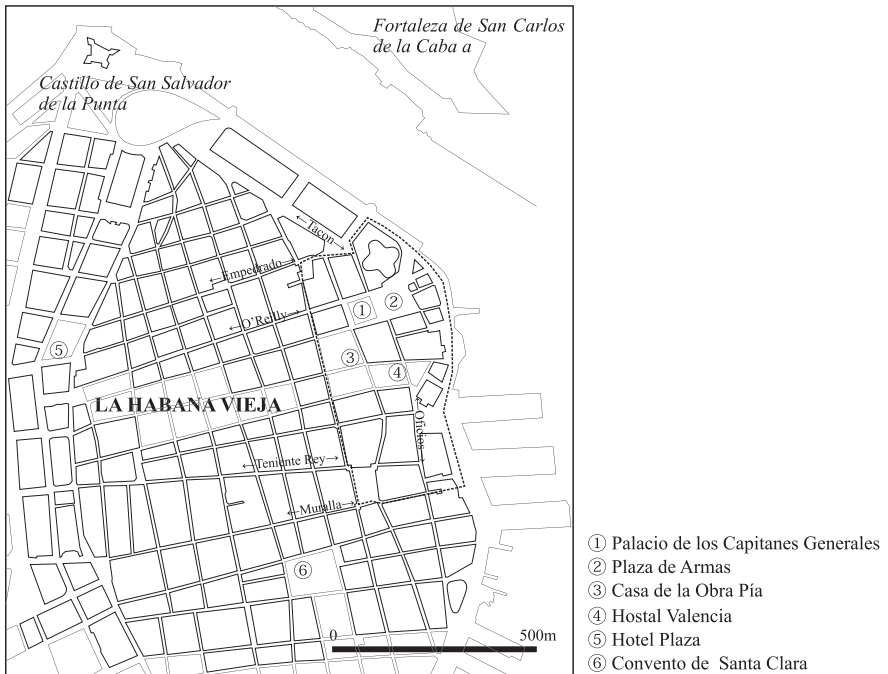


Fig. 2 ハバナ旧市街地図



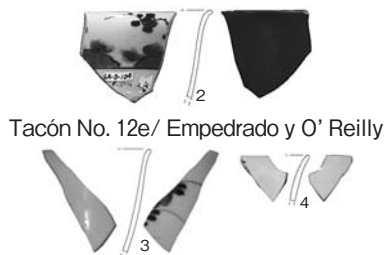
Fig. 3 アルマス広場(Plaza de Armas)



Fig. 4 サンタ・クララ修道院跡
(Convento de Santa Clara)



Zona Oeste de la Plaza de Armas



Tacón No. 12e/ Empedrado y O' Reilly

Convento de Santa Clara

Fig. 5 ハバナ旧市街地出土日本磁器 (肥前磁器)

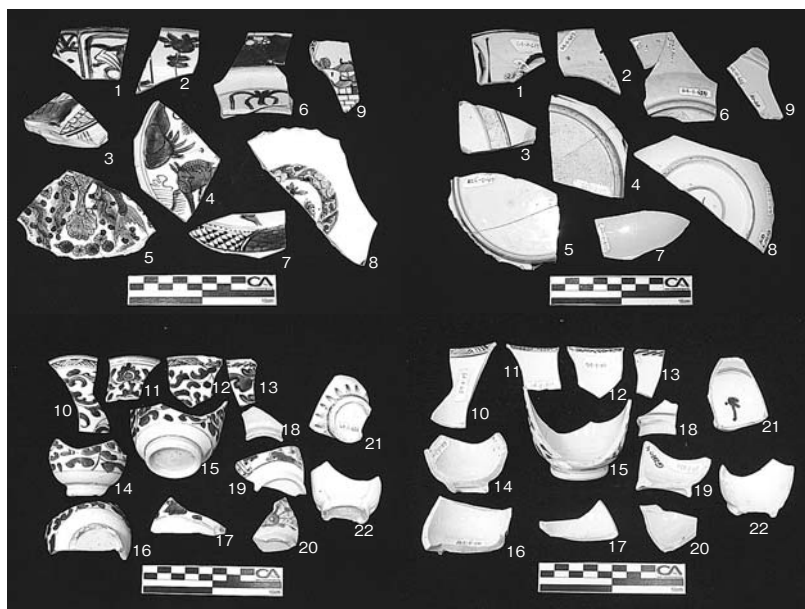


Fig. 6 ハバナ旧市街地出土東洋磁器 (1) (Courtesy: La Casa-Museo de Asia)



Fig. 7 ハバナ旧市街地出土東洋磁器 (2)

(Courtesy: Museo de Arqueología de la Oficina de Historiador de la Ciudad de La Habana)

Tab. 1 ハバナ旧市街地出土東洋磁器一覽表（1）

図版番号	登録番号	出土地点（遺跡）	種類	器種	年代	生産地
Fig. 6-1	GA-0-625	Excavaciones Arqueológicas. Palacio de los Capitanes Generales	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 6-2	GA-0-607	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa 19 83-1984)	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 6-3			染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 6-4	GA-0-622	Desconocida	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 6-5	GA-0-623	Desconocida	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 6-6	GA-0-614	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa 19 83-1984)	染付	皿	1650-1740s	景德鎮
Fig. 6-7	GA-0-604	Desconocida	染付	皿	1650-1740s	景德鎮
Fig. 6-8	GA-0-605	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa 19 83-1984)	染付	皿	1650-1740s	景德鎮
Fig. 6-9	GA-0-603	Excavaciones Arqueológicas. Oficios No. 53. Hoy Hostal Valencia	染付	皿	1740-1780s	景德鎮
Fig. 6-10	GA-0-615	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa 19 83-1984)	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-11	GA-0-617	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa 19 83-1984)	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-12	GA-0-616	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa 19 83-1984)	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-13	-	-	染付	碗	1680-1740s	景德鎮

図版番号	登録番号	出土地点（遺跡）	種類	器種	年代	生産地
Fig. 6-14	GA-0-619	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa1983-1984)	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-15	GA-0-600	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa1983-1984)	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-16	GA-0-599	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa1983-1984)	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-17	—	—	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-18	—	—	青磁掛分	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 6-19	GA-0-626	Excavaciones Arqueológicas. Garita de la Maestranza de Artillería. (Primera Etapa1983-1984)	色絵	碗	1700-1760s	景德鎮
Fig. 6-20	—	—	色絵	碗	1700-1760s	景德鎮
Fig. 6-21	GA-0-606	Desconocida	染付	碗	1740-1810s	徳化窯系
Fig. 6-22	—	—	白磁	碗	1700-1780s	徳化窯系

Tab. 2 ハバナ旧市街地出土東洋磁器一覧表 (2)

図版番号	登録番号	出土地点 (遺跡)	種類	器種	年代	生産地
Fig. 7-1	GA-0-113	Desconocida	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-2	GA-0-112	Excavaciones Arqueológicas. Tacón No. 12e/ Empedrado y O'Reilly	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-3	GA-0-631	Excavaciones Arqueológicas. Zona Oeste de la Plaza de Armas	染付	碗	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-4	GA-0-107	Excavaciones Arqueológicas. Casa de la Obra Pia	染付	碗	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-5	GA-0-111	Excavaciones Arqueológicas. Casa de la Obra Pia	色絵	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-6	GA-0-117	Desconocida	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-7	GA-0-115	Excavaciones Arqueológicas. Palacio de los Capitanes Generales	染付	皿	1580-1640s	景德鎮
Fig. 7-8	GA-0-104	Excavaciones Arqueológicas. Tacón No. 12e/ Empedrado y O'Reilly	褐釉掛分	碗	1680-1740s	有田
Fig. 7-9	GA-0-633	Excavaciones Arqueológicas. Zona Oeste de la Plaza de Armas	染付	碗	1660-1680s	有田
Fig. 7-10	GA-0-110	Excavaciones Arqueológicas. Oficios No. 53. Hoy Hostal Valencia	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-11	GA-0-109	Desconocida	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-12	GA-0-108	Desconocida	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-13	GA-0-117	Desconocida	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-14	M4. 01	—	色絵	碗	1700-1760s	景德鎮
Fig. 7-15	GA-0-105	Desconocida	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-16	GA-0-100	Desconocida	色絵	碗	1740-1810s	徳化窯系
Fig. 7-17	GA-0-102o106	Desconocida o Excavaciones Arqueológicas. Tacón No. 12e/ Empedrado y O'Reilly	白磁	碗	1700-1780s	徳化窯系
Fig. 7-18	GA-0-2276	Excavaciones Arqueológicas. Teniente Rey No. 159	色絵	皿	1700-1780s	景德鎮

図版番号	登録番号	出土地点（遺跡）	種類	器種	年代	生産地
Fig. 7-19	GA-0-102o106	Desconocida o Excavaciones Arqueológicas. Tacón No. 12e/ Empedrado y O'Reilly	染付	碗	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-20	GA-0-114	Desconocida	色絵	皿	1580-1740s	景德鎮
Fig. 7-21	GA-0-632	Excavaciones Arqueológicas. Zona Oeste de la Plaza de Armas	色絵	皿	1680-1740s	景德鎮
Fig. 7-22	GA-0-99	Excavaciones Arqueológicas. Muralla No. 60e/ Oficios y Teniente Rey	色絵	皿	1700-1760s	景德鎮
Fig. 7-23	GA-0-101	Basurero frente al Hotel Plaza. Centro Habana	染付	皿	1740-1780s	景德鎮
Fig. 7-24	GA-0-103	Excavaciones Arqueológicas. Oficios No. 53. Hoy Hostal Valencia	染付	皿	1740-1780s	景德鎮

Key Words: galleon trade, porcelain, Chinese porcelain, Arita ware, Latin America

Abstract

In 1571, Spain founded Manila City for the rule of the Philippines and Asian trade. Ferdinand Magellan crossed the Pacific Ocean half a century before that time. After the City of Manila had been built, the Manila Galleon trade route was soon established. It functioned as a long-distance and large-scale sea trade route connecting Asian world with the American Continent until the early 19th century. Many Asian goods, such as silks and spices, were exported by the Spanish galleons. They included East Asian porcelains as well. Moreover East Asian porcelains were transported from the American Continent to Spain by the Caribbean Sea and the Atlantic Ocean. Havana was one of the most important trade cities in the Caribbean Sea and many Asian goods were imported to Havana. Therefore the authors started to research on Oriental porcelains unearthed from *La Habana Vieja* in Havana in 2014. These pieces of porcelain were Chinese porcelains, except 4 pieces of Japanese porcelains. The majority of these pieces of Chinese porcelain were blue-and-white dishes and blue-and-white or overglaze-enamel chocolate cups. They were produced in mainly Jingdezhen, Jiangxi province between 16th century and 19th century. All pieces of Japanese porcelain were blue-and-white chocolate cups that were produced in Arita, Saga prefecture in the second half of 17th century. This general character is similar with one of Central America such as Mexico and Guatemala. This fact shows us that most of these porcelains were transported from Central America, not from Europe. However we have to consider the possibility that some porcelains were imported from Europe and North America because Havana became free port in 18th and 19th centuries and opened to all countries.